



森のなかま

2010年 5月号
NO.25 (継続170)

NPO法人かながわ森林インストラクターの会 <http://www.forest-kanagawa.jp> 発行人 島岡 功
〒243-0014 厚木市旭町1丁目8-14・グリーン会館 TEL046-280-4101・FAX046-280-4102

「全国植樹祭2010かながわ」開催間近
会の総力を挙げ祭典成功のために尽力しよう！！



事務局長 竹島 明

2008年7月26日、相模湖畔林で「第1回森のリーフェスタ・育樹の集い」が開催されました。これが「森が育むあなたの心 森を育むあなたの手」をテーマとした全国植樹祭に向けた取組の第1歩でした。

あれから2年、全国植樹祭に向けた取組は積み重ねられ、昨年は「かながわプレ大会2009」が本番さながらに秦野、南足柄2会場で開催されました。また10月には横浜赤レンガ倉庫広場を会場に「全国植樹祭カウントダウンセレモニー」が開催され、柏倉植樹祭担当理事が植樹祭協力への力強い決意表明をしてきたところです。

今年度に入って各自治体主催で、全国植樹祭に連動した植樹活動(サテライト)が取り組まれています。そして、植樹祭前日の5月22日には「第39回全国林業後継者大会」が伊勢原市民文化会館で行われます。この大会には当会森林癒し副部会長の谷津直美さんがパネラーとして出演し、会活動の報告とディスカッションに参加することになっています。

秦野会場での植樹指導・会場誘導等に110名、南足柄会場に17名のインストラクターが、そして出店担当、全国林業後継者大会応援、招待関係のインストラクターを加えると植樹祭当日は総勢150名を超えるインストラクターの皆さんが参加することになります。まさに歴史的イベントに、会の最大規模での協力体制を構築することができたのは、ひとえに会員の皆様方の熱い心意気があってのことと心より感謝申し上げます。

そして、何よりも間近に迫った「全国植樹祭」を一点の瑕疵なく成功させるために、会員の皆様方の更なるご支援・ご協力と、安全に配慮した細心の心配りをお願いし、成功に向けた決意表明とさせていただきます。ともに頑張りましょう！

燈無尽

21世紀の森林づくりに 新たな息吹きを(2)

柏倉 紘 全国植樹祭担当理事

迎えて21世紀。「未来につなぐ森づくり」(かながわ森林再生50年構想・2006年)が平成18年に提示された。「水源の森林づくりを核とした神奈川の森林全体の再生」を掲げ、森林地域を里山・山地・奥山の3領域に分け、それぞれの地域特性、環境に適した森林の50年後の姿を描いている。そして、生物多様性に心を配り、そこに生きる全ての生物たちの営みを大切に「共存・共生」の森林を目指していることを感じる長期展望である。

地球に生きるものすべてが、均衡を保ち調和のある生態系の中に存在する事がかなうならば、この上の望むべきことはない。

地球温暖化問題をはじめとして、『生命の星:地球』の喫緊の課題は数多い。今、個人としてできること何かを自らに問い、できることから取り組んでいきたい。

「第61回全国植樹祭」を21世紀における森林づくりの序奏として、次の世代に生命の交響詩あふれる豊かな森林を引き継ぐために心したいことがある。

それは、過去に例を見ない一大行事となる植樹祭が、どれほど県民に浸透し関心を持たれているのか、また、この催しの目的や意義がどのように理解されているのだろうか、という視点である。全国植樹祭を実施して得られたものは何か、課題として残されたものは何か、そして会場となった地域の人々の思いは如何か、という振り返りを行うことでこれからの展開に示唆する事柄が少なからず浮かび上がってくるに違いない。

今後、我が会の活動は、「県民との協働による水源の森林づくり」に関わる諸活動を中心として一層増えると思われるが、新たに意を砕いていきたいことがある。それは、機を置かずしてそれぞれの場所それぞれの立場で、「地域における緑づくり(緑の復活、地域緑化とでもいえよう)」等の行動を起こすことに他ならない。

その具体的な行動について提起したい。

多くの人々に「森林の持つ働きと現状」を知らせる活動を行う。

各地域における里地・里山の保全活動に参画し、活動の輪を広げることに努める。

地域活動に取り組む団体等の連携を図り、協力関係を作り上げる。

次代を担う青少年に、森林との交流を図る活動を提供する

こうして、山懐に足を運び大鎌を持ち、鋸を手に汗する同胞が増えることを願っている。

また、諸活動の中で耳にすることが多い、森林のありように対する意見・要望・疑問等を、林業施策に反映できるような取り組みも模索していくことも考えなければならない。

21世紀の森林づくりは、地域活動の一翼を担いつつ、県民との協働による森林づくり活動にも携わり、植樹祭で掲げられた「森を守り、森を育てる」森林再生の明かりを率先して受け継いで行かなければならないことを銘記しなければなりません。

私自身が楽しみ、喜んで取り組んでいる……ことを第一として。

柳澤さん

古(いにしえ)の英知受け継ぐ御柱

柳澤 千恵美 <11期>



数えて7年目の寅と申の年に、長野県諏訪地方では天下の奇祭と称される「御柱祭」(おんばしらい)が行われます。御柱祭とは、山から切り出したモミの大木を、人の力だけで十数キロの道のりを曳き、社殿の四隅に建て替える祭り*です。諏訪大社は上社(かみしゃ)と下社(しもしゃ)に分かれ、上社は本宮(ほんみや)と前宮(まえみや)、下社は秋宮(あきみや)と春宮(はるみや)に分かれているので、全部で4つの社殿に、それぞれ4本ずつ(合計16本)の柱が建てられます。

4月上旬に、柱を山から里まで曳き降ろす3日間の「山出し祭」が行われます。途中、急な坂を下る「木落とし」や冷たい雪解け水の川を渡る「川越し」(上社のみ)などの難所があります。5月上旬に行われる「里曳き祭」(3日間)では、里を練り歩いた後、柱を社殿の四隅に建てる「建て御柱」が行われ、祭りはフィナーレを迎えます。

テレビなどでよく放送される、急坂を御柱が下る「木落とし」の場面は、命懸けの迫力にあふれる祭りのハイライトのひとつです。二千を超える多数の人間が、実に見事に呼吸を合わせ、ある時はダイナミックに急坂を下り、川を渡り、ある時は実に繊細な動きで巨木を操ります。

御柱に使用されるモミの木は、最大のもので直径1m余り、重さは約10トン、長さ約17mとされていますが曳航(えいこう)にあたっては、文明の利器はもちろん、こらや、車も使用しません。甲高い独特の節回しで唄われる「木遣り」に合わせて、柱一本当たり約二千人の曳(ひ)き子が力を合わせて一斉に柱を曳きます。御柱祭の記録は平安初期が最初ですが、その起源はさらに遡るともいわれています。今も昔も「巨木を人の力だけで曳く」という原則は変わらないので、人員的にも経済的にも大変な負担がかかります。歴史上、何度か衰退したこともありましたが、諏訪地方の人々は、頑なにこの祭りを現代に守り伝えてきました。

数々の困難と命の危険を伴うにも関わらず、何故そこまで御柱に熱くなれるのか…。その疑問に対する答えは、一度、御柱の曳き綱を引いて見ると、体感することができます。一人の力では、びくとも動かない巨木が、皆の気持ちがあった瞬間、するすると動き出します。「力を合わせること」によってのみ成し遂げられる御柱の曳行。それは、巨木に神が宿ったと感じられる瞬間でもあります。

5月に諏訪大社の里曳き祭が終わった後も、全国の諏訪神社や、長野県内の関連神社で次々に御柱祭が営まれます。これらは総称して「小宮祭」と呼ばれ、11月末ごろまで続きます。(詳細:信州諏訪御柱祭公式ホームページ参照。<http://www.onbashira.jp/>)



* 厳密には諏訪大社神職のみで行われる「宝殿遷座祭」(6月に行われる宝殿を新築する祭礼)を含みます。

私の認識

野鳥その78

高橋 恒通

今月はホオジロ科の留鳥のホオアカ(漢和名:類赤、英名: Grey-headed Bunting, 体長L = 16cm)についてご案内致します。

留鳥ですが冬季には国内の暖地に移りますので漂鳥と併記した図鑑もあります。体色は 同色です。

世界地図上では、ユーラシア大陸東部の中国東北部、ウスリーからヒマラヤにかけて分布するそうですが、我国では北海道から沖縄にかけて分布、繁殖します。

棲息環境は、平地から山地の草原、農耕地、牧場、川原など背丈の低い草地です。北海道や東北地方では牧場や農耕地、関東地方では平地の川原などで繁殖例が多いそうですし、本州中部から九州では山地の高原で繁殖しています。

繁殖期にはクモ類や昆虫類を捕らえ雛に与え、非繁殖期には地上で跳ね歩き乍らイネ科植物の種子をついばんでおります。



ホオアカ

体色は、頭部から後頭、頸側は灰色地に黒褐色の縦斑が混じります。頬には赤褐色の模様があり、これが名前の由来です。

喉下は白色で胸に黒色と茶色の帯があり下面は濁白色です。その他背面はホオジロと同じで、尾羽がホオジロより少し短かめです。

繁殖期の囀りは“チョッチチチチロツ”と言うホオジロに似ていますが、ホオジロより早口で短いと私は認識しております。

そしてホオジロの様に木の天辺で啼く姿を私は観てません。

私は“清里の囀り研究会”で野辺山へアカモズを観に行った折、お目当てのアカモズは姿は見えませんが、ホオアカが低灌木の枯れ枝で囀っていました。また、那須高原でも尾瀬でも姿を観てます。そして、いつもホオアカと呼ばれる理由の根拠をハッキリと確認しております。

ホオアカはホオジロ科の野鳥の中では、ユキホオジロ(後稿でいずれご案内予定)を除けば、最も開けた広い処を好む種であろうと認識してます。

因みにホオアカは当の神奈川県下では、箱根、小田原、座間、海老名、横浜で確認されてますし、私の居る伊勢原でも確かめられてますが、私自身は県下で未だ観ていません。

6~7月頃、草丈の低い草原でホオジロに似た囀り声が低い位置で聞こえたらホオアカの存在をイメージする事は大切かと思えます。

続いてのホオジロ科の野鳥は、旅鳥又は稀な冬鳥のコホオアカ(漢和名:小類赤、英名: Little Bunting, 体長L = 13cm)についてご案内いたします。

私自身は勿論まだ観てませんが、我国で見聞きできるホオジロ科の野鳥の中で最も小さい種がコホオアカです。日本では稀な旅鳥又は冬鳥ですが、世界地図上ではユーラシア大陸の亜寒帯域で広く繁殖してるそうです。

体色は 同色、頭部はホオアカに似ているけれど胸前は濁白色地に黒い縦斑があり、下面は濁白色です。そして背面はホオアカとよく似ています。

春や秋の渡りの折に、カシラダカに混じっているそうですが、我国では対馬や琉球列島で定期的に観察されるそうです。

棲息環境や採食はホオアカと殆ど変わらないようですが囀りは“チュウチュウチョイチュウチョ”などと組み合わせで、1節の長さがホオジロの2~3倍の長さとの事です。

<参考資料>

日本の野鳥 山溪ハンディ図鑑7 写真・解説/
叶内拓哉、分布図・解説協力/安部直哉、解説(鳴き声)/上田秀雄、山と溪谷社。

とり、自然ガイド、浜口哲一・文、佐野裕彦・絵、
文一総合出版。

日本の野鳥、山溪カラー名鑑、編・高野伸二、
解説/浜口哲一他3名 山と溪谷社

日本の野鳥 フィールドガイド1 竹下信雄著
小学館

写真提供: 山本 健一郎氏(箱根VC許可済み)

全国インストラクター

環境省・箱根パークボランティア解説員

本の紹介 堤 洋<8期>

森が消えれば海も死ぬ 第2版
松永 勝彦 著



初版本は1993年に出版されたそうですが、その改定版として著わされました。著者の専攻が化学ということで、生態系への見方も生物系思考の我々とは若干異なりますので紹介しました。全5章から構成され、前半は川や海の生物を森が育てている事と、森が貧しければ海も貧しいことを取り上げ、化学的な見地から「鉄イオン」がその間に重要な役割を果たしていると説明されています。植物の大多数が光合成によって生命体を維持し、成長もしている。この解説を通して、あらためて森林の持つ機能の役割を考えさせられます。

後半は「海の砂漠化」、「人間と海のかかわり」を自身の研究成果を踏まえ、まとめられております。この中で驚いたのは「海にも桜が咲く」、「北の海にはなぜ魚が多いのか」等私にとって初めての知見が紹介されています。

最後の章は初版本が相当書き換えられたようですが、地球環境再生について温暖化の現状やその対策についてまとめられており、先年この蘭で紹介した畠山重篤氏の「森は海の恋人」や襟裳岬の再生等も紹介されています。

- 「人間と自然が共存するには」というまとめでは著者は4項目を挙げています
- これ（現在）以上の便利な生活を追い求めるのか
 - 自然を復元する河川工法
 - 生態系を妨げない砂防工法
 - 森林のだいじな機能

この項目の では余りに便利な生活に慣れ過ぎてしまっていないかという反省をこめて書かれており、私も省エネと健康維持を兼ねて地下鉄の2駅程度は歩いても良いかなという思いや、街頭の自動販売機は多過ぎるという提言にも納得しております。

ただ、 になると「未だ途遠し」の感があります。著者は年に3000本の植林を続けられているというがこれには頭が下がります。とはいえ、生き物の生態しか関心を示さなかったのに化学の世界の学者が生態系のお話を判り易く説明されているのには驚きを隠せません。

(ブルーバックス 講談社 800円+税)



本の紹介 村井正孝<9期>

神奈川県立生命の星
地球博物館 編

フィールドワークの達人

心得、知恵、記録、わざ、道具とスタイルなど自然観察のイロハ、教えます

東海大学出版会
1800円+税
2010年2月20日
新発売

この本は自然大好き人間へのプレゼントに最適です。喜ばれますよ。

この本を作った人の紹介です。(敬称略)・
青木淳一 2000年から2006年まで館長を務めダニ及び土壌動物を専門としている。
大島光春 古生物担当の学芸員、日本を中心に東アジア地域に生息していた(いる)イノシシ類の系統を研究している。**笠間友博** 火山担当の学芸員 **勝山輝男** 植物担当の学芸員。茎のある植物ならなんでも手がけてます。**加藤ゆき** 鳥類担当の学芸員
苅部治紀 昆虫担当の学芸員 **佐藤昭男** この本の制作に参加 友の会会長でかながわ森林インストラクター8期生です。**佐藤武宏** 甲殻類、貝類担当の学芸員 **瀬能宏** 魚類担当の学芸員 **高桑正敏** 昆虫担当の学芸員、研究分野は昆虫の中のカミキリムシ・ハナノミ科甲虫の分類 **田口公則** 古生物担当の学芸員、黒潮に乗って南からやってくる浅い海の貝たちが好きです。**田中徳久** 植物担当の学芸員 **鶴田知志子** 友の会会員でイラストを担当 **広谷浩子** 哺乳類担当の学芸員 **ほか1名**

松田町だより 6



町おこし
芋焼酎が
ついに！！
誕生しました。

おしゃれなデザイン



寄産いも（こがねせんがん）3，
5トン。芋焼酎の出来高3，062
本でした。寄の方々や会員の皆様
の努力の結果です。ソフトな口当
たりに、若い女性にもきっとファン
が増えることでしょう。



活動短信

3/13～4/25

成長の森見学会

日 3月13日（土）晴れ 9時半～16時
場 やどりき水源林 平成21年度成長の森
参 大人 78名、子供 36名
県 森林課 12名
財 5名 青木
イ 先発8名・L大澤、横山、鈴木、小野、
白畑、飯澤、福島、松山、
後発8名・L金森、高崎、愛木、伊藤、
坂齋、武者、有坂、高橋、
グッズ販売 米本、
交流会 L森本、鈴木松、村井、

時々強い風が吹くものの概ね天気良好、本日の成功を占うよう。だっこ紐の乳飲み子から、孫の名前で植えられた樹を見に杖を頼りに山道を登る老夫婦まで、一人ひとりが楽しそうに“森林の気”を満喫していました。

お帰りの際に頂いたアンケートに『2歳3ヶ月、今日の往復を一人で歩けました。今まで一番長く歩いたと思います。森林の力はすごい!!』

お母さんの感激・喜びが伝わってくるではありませんか。この企画がいつまでも続くことを祈ります。
（記 10期 大澤）

ふるさとの森づくり運動実行委員会主催の植樹

日 3月20日（土）晴れ 強風 9時～14時
場 小田原市・塔ノ峰山頂付近
参 ふるさとの森実行委員会 星野会長ほか5名
久野、足柄、三の丸、芦子、各小学校親子82名
地元 9名
県・市、関係職員 35名
一般公募参加者 68名 合計 206名
イ L米山、横山、釘宮、石田（順）、
水津、高橋、水口、松山、

本事業は森林再生の一環として従来の針葉樹林の整備中心から広葉樹林の整備を進めて行く為小田原市自治会総連合会他関係団体の参加を得て運動テーマ「森林が守る私達の生活環境」とし実行委員会を組織し平成15年度より年次計画を基に広葉樹の苗木の植林を近隣の小学校及び一般公募により、毎年実施されている。

今回は全国植樹祭サテライト会場として併せて行われ、小田原市役所に集合。マイクロバス10台に分乗し植林会場に向かい現地に到着。そして主催者による開会式後、マイクロバス乗車番号別にインストラクターの誘導により各自唐鎌、苗木を持参し植林場所で植栽方法について説明後、広葉樹苗木2,500本（イロハモミジ、ミズナラ、コナラ、ケヤキ、ヤマザクラ、ヤマボウシ、クヌギ、カツラ、ブナ、トチノキの10種）の植林を行う。（記 4期 米山）

宮ヶ瀬湖畔園地での植樹と保育作業

- 日** 4月10日(土) 晴れ 11時~13時(作業時間)
- 場** 宮ヶ瀬湖畔園地
- 参** 約130名
- 他** 宮ヶ瀬ダム周辺振興財団(以下「財団」)から作業指導者7名。
- イ** 浦野、相馬、小野、松永

財団の企画で実行は鉄鋼総合商社の(株)メタルワン。参加者は社長含む同社社員、関連会社社員とその家族である。「第14回メタルワン環境ボランティア」として宮ヶ瀬は7回目。植樹はヤマモミジの大苗29本を事前に穴掘りと黒土が準備されていた場所で我々インストラクターが実演した後に全員で実施、その後の保育作業は昨年同社の活動により植樹したアジサイの根回りに腐葉土と肥料を施す作業で財団職員が実演して見せて作業に入る。園地内はダム建設時の残土で埋められたそうで土は石交じりで固く、またアジサイ植栽場所は急斜面のため参加者は苦労していましたが小さな子供も頑張っていました(中途半端な状態の箇所は後で財団職員等が補完するとのこと)。参加者はこの後のバーベキューも楽しみのようです。(記 8期 浦野)

鶴岡八幡宮さん 槐の会 森林活動

- 日** 4月24日(土) 曇りのち雨
- 場** やどりき水源林
- 参** 64名 + スタッフ約10名
- 県** 金子
- イ** 森本、竹島、渡辺孝、高崎、坂齋、渡部公、草野、松山、宮下、福島、

鶴岡八幡宮さんの定例ネットワーク活動。午前はパートナー林で、間伐と林内整備チームの二つに分かれて展開。間伐チームは、ヒヤリハットにも充分気を遣い、50年生・樹高15m以上の高木2本を伐採。鋸をひく人、ロープを引っ張る人など全員の頑張りで、間伐の醍醐味を満喫。林内整備チームは、アニマルヘッジづくりとネットの補修などを、丁寧に行った。山地の所為か、昼食途中での降雨により、午後の森林いやし体験活動は中止となった。

今秋に、このフォローアップを約していただく。いつも多様な企画を受容していただける槐の会事務局さんにあらためて感謝し、新緑のやどりき水源林を後にした。(記 5期 森本)

今月から、電子配信ユーザーが一気に増えました。皆さんのお申込に感謝です。これからも電子配信にご協力をお願いします。

新規にご希望の方は期・番号・名前を明記し、murapu60dai@yahoo.co.jp 村井までメールを・・・
広報部・電子配信担当・森 義徳

~春の山野草観察と山菜パスタ~

- 日** 4月24日(土) 曇りのち雨 9時~15時
- 場** 県立21世紀の森
- 参** 12名(大人9名・子供3名)
- AGSスタッフ** 呉地
- イ** 村井

- 日** 4月25日(日) 晴れ 9時~15時
- 参** 17名(大人15名・子供2名)
- AGSスタッフ** 布施晶子(あっきーさん)
- イ** 村井、鈴木孝(特別出演)

<あっきーさんからのお便り>

24日は冷たい雨の降る中、25日は爽やかな快晴のもと、2日間お世話になり有難うございました。天候も色々、参加者もいろいろ、毎回違った楽しみと学びがあります。村井さんのおかげで、今回も参加者の皆様には春の森での観察をのんびりと満喫し、それぞれに発見があり、昼食の山菜パスタ等も和気あいあいと楽しんで、ご満足いただけましたものと思っています。箸袋やヨモギ入り白玉を、いつもありがとうございます。また、鈴木さんとの「緑の糸」も、しっかりつながりました。(記 9期 村井)



古代米、黒ゴマ、味噌のソースが美味しい!



楽しいお昼は山菜パスタ



春の山野草観察会

やどりき水源林
ミニガイド

4月のトピックス



カモシカ登場
広報部(森義徳氏 撮影)

5月の水源林



ウツギの花が咲き乱れます。M

「森の案内人」情報

実施時間：毎週土曜・日曜・午前10時午後13時より1~2時間(冬季休止)

集合：水源林入口ゲート前

内容：森林インストラクターが自然観察にご案内します。森林のしくみ・手入れなどについて説明いたします。

参加自由、参加費無料

*10人以上の団体は事前に下記までご連絡ください。

問合せ：(財)かながわトラストみどり財団 TEL:045-412-2255

fax:045-412-2300

- ホームページ：：<http://www.ktm.or.jp>
- E-mail:midori@ktm.or.jp
- やどりき水源林までの道順

小田急線新松田駅または JR 御殿場線松田駅下車、富士急湘南バス「寄(やどりき)」行き乗車約25分。バス下車後(案内板あり)川沿いに徒歩35分。寄大橋の右横が水源林ゲートです。

森の写真コンクールに
受賞しました。



広報部のカメラマン、鈴木松弘氏が、神奈川森林協会のコンテストで、銀メダルを受賞、今回は金メダルをと意欲満々です。受賞作品

森のなかま原稿募集

会員・購読の皆様からの原稿を募集しています。写真、スケッチなども募集しております。

送り先

< 電子配信希望 >

森 義徳 〒232-0053

横浜市南区井土ヶ谷下町16-3-202

Tel/090-5433-7784Fax/<株リコー・森宛045-590-1910>

Mail: myforest@yha.att.ne.jp

< メール・手書き原稿送り先 >

【本誌】村井正孝

〒226-0002

横浜市緑区東本郷6-22-1-420

Tel/Fax: 045-476-4112

Mail: murapu60dai@yahoo.co.jp

【別冊】金森 巖

〒227-0038

横浜市青葉区奈良2丁目10-5

Tel/Fax: 045-961-6695

Mail: i_kanamori@morinotabibito.com

【OCで】森本正信

〒194-0001

東京都町田市つくし野2-13-7

Tel/Fax: 042-796-6011

Mail: k-inst0981@friend.ocn.ne.jp

原稿の締切は毎月20日です。

< 編集後記 >

季節外れの降雪と冷害、火山の噴火による混乱、巨大地震の発生、日本=果物野菜等の高騰、我がお茶畑も発芽遅れる。地球は異常な状態にあるのか不明。天変地異は有るものだから、心の準備だけはしておこう。

(鈴木松)

受賞コメント：県産材使用が叫ばれているかなり前から、林業従事者の現場の写真を撮りたいと思っていた。幸い、昨年秋に世附の山中で、山行中、偶然現場に遭遇、現場の生々しい構図を考えて撮りました。

(鈴木松弘)

今年の春は本当によく雨が降りませんが、3月と4月(25日まで)の雨の降った日を調べてみると去年の14日に対して今年は28日、なんとほぼ二日に1回は雨が降っています。ちょっと降りすぎ。

(鈴木朗)

4月に入って高校の教員補助員に再就職し、今までと生活が一変しました。今は、若い生徒たちの未来に少しでも役立ちたい気持ちで一杯です。

(井出)

山中湖畔ヤドリギを見てきました。今の時期はマリモのような形がはっきりわかります。家に帰って自慢げに報告したところ、「知らなかったの? たくさんあるじゃん。」と云われてガックリ。運転手はよそ見はしないのだ。富士山は別。

(川森)

フレッシュ11期生柳澤さんの『御柱レポート』はまさに温故知新

(村井)

年間購読のお申し込み

「森のなかま」年間購読をご希望の方は、郵便局備付けの郵便振替を利用してお申し込みください。

郵便振替口座 00230-0-2454

かながわ森林インストラクターの会宛まで購読料年2000円をお振込みください。振替用紙には、必ず、住所、氏名を明記してください。

振替用紙到着の翌月号から12回/1年間お届け致します。

(領価 200円 送料共)

編集人：村井正孝

広報部：井出恒夫(HP) 鈴木松弘

金森 巖 森本正信 森 義徳

鈴木朗 川森健司、上野潤二

中村公也、原田智也、

後方支援隊長：柳澤千恵美

驚き!!シュレッターした紙から芽がでた。



利用用途も色々

- ・職場や自宅のインテリア
- ・環境イベントや事業場見学のお土産として
- ・事業所や近隣緑地の緑化活動の植樹用として
- ・近隣の小学校や団体に配布
- ・グッズマイスターとして登録(只今申請を検討中)



広報部・別冊担当
金森氏が考案しました。